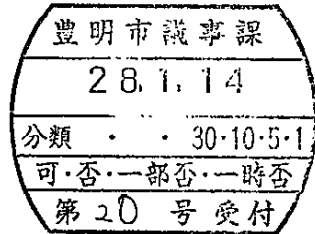


会派行政視察届出書

平成28年 1 月 1 4 日

豊明市議会議長 殿



会派の名称 緑の風

代表者氏名 蟹井智行

下記のとおり会派の行政視察を実施しますので届出致します。

記

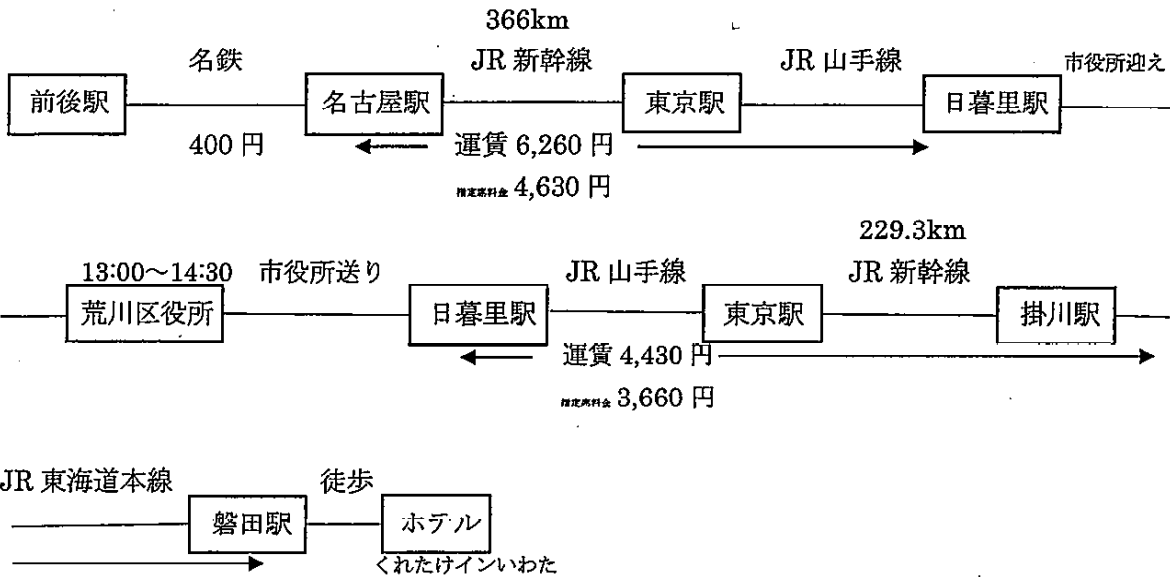
期 間	平成28年 2 月 2 日～ 2 月 3 日 (1泊2日)		
視 察 先 及 び 視 察 事 項	<p>【2月2日(火)】 東京都荒川区役所 「学校パワーアップ事業」の中の「学力向上マニフェストについて聞き取り」</p> <p>【2月3日(水)】 静岡県磐田市役所 「磐田市小中一貫教育について聞き取り」</p>		
参加議員	蟹井智行、近藤裕英		
旅 費 額 (概 算 額)	—	21,080	旅 費 総 額 2 人 分 77,160 84,700 / 円
	人	24,850 円	
	当	3,000 円	
	り	14,500 円	
		その他 38,580 円 合 計 42,350 円	
備 考			

平成27年度 豊明市議会 会派「緑の風」2月行政視察行程表

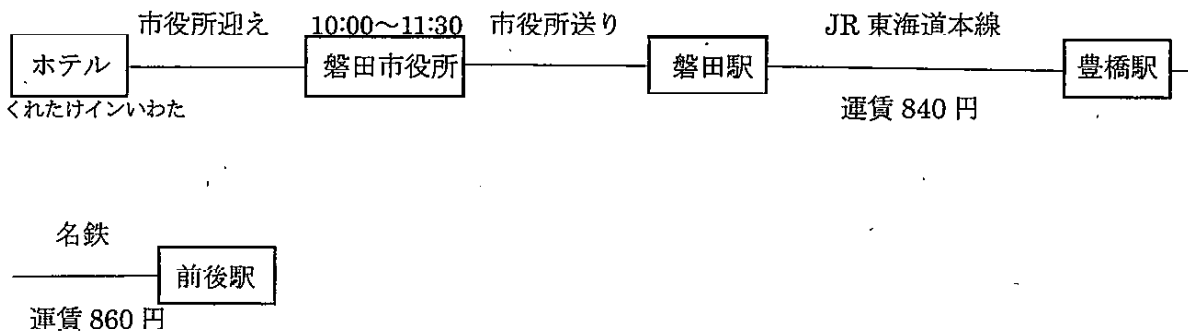
1 日時 日時 平成28年2月2日(火)～2月3日(水)

2 行程

1日目(2月2日)



2日目(2月3日)

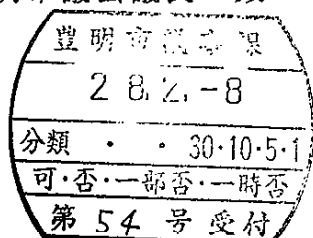


運賃合計 一人 21,080円

会派行政視察変更届出書

平成28年 2 月 8 日

豊明市議会議長 殿



会派の名称 緑の風

代表者氏名 蟹井智行

平成28年 1 月 14日付けにて届出致しました会派行政視察について、下記のとおり変更しましたので届出致します。

記

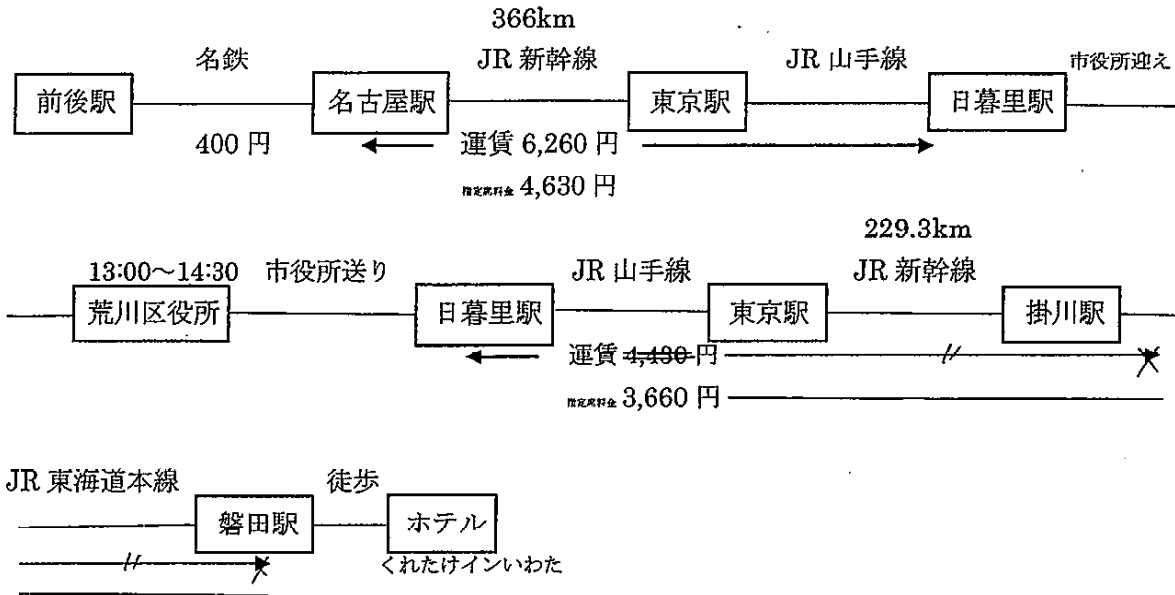
	変更後	変更前																								
期間																										
視察先 及び 視察事項																										
参加議員																										
旅費額	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">一</td> <td>交通費 20,890 円</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">一</td> <td>交通費 21,080 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">人</td> <td>日 当 3,000 円</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td>日 当 3,000 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">当</td> <td>宿泊料 14,500 円</td> <td style="text-align: center;">当</td> <td>宿泊料 14,500 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">り</td> <td>その他 0 円</td> <td style="text-align: center;">り</td> <td>その他 0 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合 計 38,390 円</td> <td></td> <td>合 計 38,580 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>総額 76,780 円</td> <td></td> <td>総額 77,160 円</td> </tr> </table>	一	交通費 20,890 円	一	交通費 21,080 円	人	日 当 3,000 円	人	日 当 3,000 円	当	宿泊料 14,500 円	当	宿泊料 14,500 円	り	その他 0 円	り	その他 0 円		合 計 38,390 円		合 計 38,580 円		総額 76,780 円		総額 77,160 円	
一	交通費 20,890 円	一	交通費 21,080 円																							
人	日 当 3,000 円	人	日 当 3,000 円																							
当	宿泊料 14,500 円	当	宿泊料 14,500 円																							
り	その他 0 円	り	その他 0 円																							
	合 計 38,390 円		合 計 38,580 円																							
	総額 76,780 円		総額 77,160 円																							
備 考																										

平成27年度 豊明市議会 会派「緑の風」2月行政視察行程表

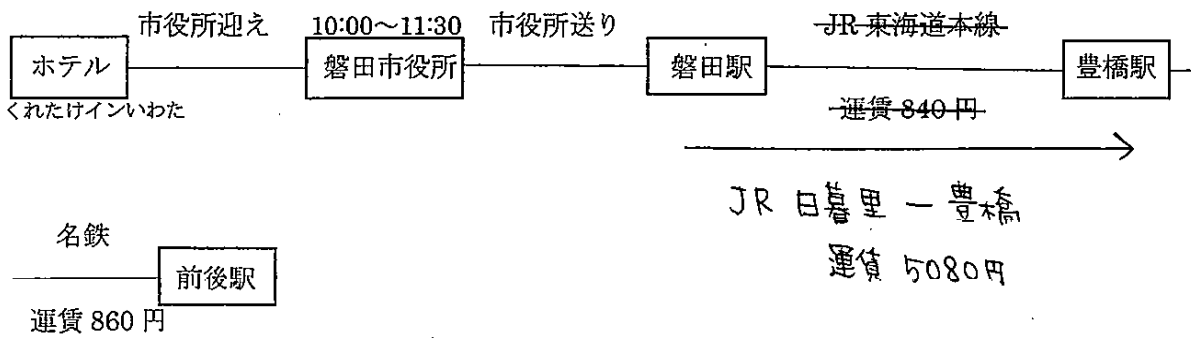
1 日時 日時 平成28年2月2日(火)～2月3日(水)

2 行程

1日目(2月2日)



2日目(2月3日)



20,890
運賃合計 一人 21,080円

旅 費 計 算 書					概 算		28年 1 月 14 日			
					精 算		28年 2 月 8 日			
決 裁 欄	人 事 担 当 課	課長補佐	担当係長	係	主 管 課	課 長	課長補佐	担当係長	係	所属課名
職 氏 名		議員 蟹井智行 外1名 /				職 務 の 級				
目 的		会派(緑の風)行政視察 /				議 員 /				
出 張 先 (地 名)		東京都荒川区 外 /								
出 張 月 日		平成 28年 2月 2日 (火) ~ 平成 28年 2月 3日 (水) /						1 泊 2 日		
経路・運賃 (旅費計算の起点~終点)		(別紙のとおり)								
過不足が、生じた時は、赤字で訂正のこと										
		概 算				精 算 (過不足額無しの時不用)				
経 費	運 賃	21,080円×2人 42,160 / 円				20,890円×2人 41,780 円				
	宿 泊 料	14,500円×2人 29,000 / 円				29,000 円				
	日 当	1,500円×2人×2日 6,000 / 円				6,000 円				
	計	77,160 / 円				76,780 円				
経費の過不足額										380 円
経費の過不足 が生じた場合 の決裁欄		人 事 担 当 課	課長補佐	担当係長	係	主 管 課	課長補佐	担当係長	係	
負 担 金		円								
市以外の補助団体及び補助金額		円								
備 考		近藤裕英 /								

番 号

※ 主管課の決裁欄中、課長補佐が配置されていない場合は、主幹が専決し、主幹又は課長補佐が配置されていない場合は、課長が専決する。

◎ 市役所以外の勤務公署からの旅行又は自宅から目的地へ直行・直帰する場合等は、勤務公署から目的地までの運賃(市役所から目的地までの運賃を上限)を限度額として計算する。

【参考】市役所⇒前後(名鉄バス:180円)、前後⇒金山(名鉄電車:350円)、前後⇒名古屋(名鉄電車:400円)

◎ 通勤定期乗車券が利用できる場合は、その区間の運賃を減額する。

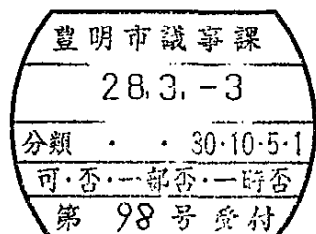
◎ 経路・運賃欄は、旅費計算の起点から終点までの部分のみを記載する。(片道公用車を使用した場合や主催者のバスを利用した場合などは、その状況がわかるように記載する。)

2/8
確認

会派行政視察報告書

平成28年3月3日

豊明市議会議長 殿



会派の名称 緑の風

代表者氏名 蟹井 智行

下記のとおり会派の行政視察を実施したので報告します。

記

期 間	平成28年2月2日～2月3日(1泊2日)
視 察 先 及 び 視 察 項 目	【2月2日(火)】 東京都荒川区役所 「学校パワーアップ事業」について聞き取り 【2月3日(水)】 静岡県磐田市役所 「磐田市小中一貫教育」について聞き取り
参加議員	蟹井智行、近藤裕英
欠席議員	なし
備 考	



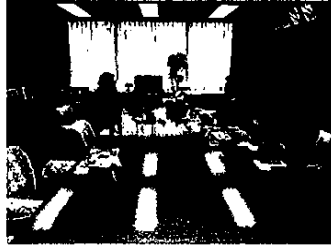
会派行政視察報告書

蟹井智行

2016年2月2日(火)

東京都荒川区教育委員会高梨博和教育長と荒川区教育委員会事務局指導室小山勉指導室長から説明を受けた「学校パワーアップ事業」の内容

1 荒川区学校パワーアップ事業

- 荒川区では、24の小学校と10の中学校の全部で34の小中学校が「荒川区学校教育ビジョン」(教育の荒川区宣言)による学校教育の実現に積極的に取り組み、教育活動の活性化・特色ある学校づくりを推進するための「学校パワーアップ事業」を実施している。
- この事業は、平成20年度から始まり、各学校の校長の予算執行上の裁量権を大幅に拡大し、これまでの学校教育の成果と課題をふまえ、各学校がさらにレベルアップしていくことを目指している。
- この「学校パワーアップ事業」は全部で3本の柱があり、1本目の柱は、校長の学校経営構想に基づき、教員の授業力向上策や子どもの学力向上の定着・向上を図るための学校の取り組みを各学校が「学力向上マニフェスト」としてまとめ、保護者・区民に公表するとともにその成果も公表するもの。予算は、各学校80万円。
- 2本目の柱は、「創造力あふれる教育の推進」で、荒川区学校教育ビジョンの掲げる心の教育、健康や体力づくり、地域社会と一体となった教育を推進するために、各校の特色ある教育活動をより充実・活性化させる取り組みをするもの。教育活動の成果については、積極的に公表し説明責任を果たすものとする。予算は、各学校100万円。
- 3本目の柱は、「未来を拓く子どもの育成」で、個性や可能性を開花させる教育を一層充実させるため、子どもの学びを引き出す教育環境を一層整えるために、各学校の提案による優れた特色ある企画・実践に対して、必要と認める予算を配当し教育効果を挙げる取り組み。予算は、各学校40万円平均。
- それぞれの予算については、会計事務規則および予算事務規則を改定し、荒川区学校パワーアップ事業に限り、報償費や使用料など、これまで学校では執行できなかった支出科目を拡大し、各学校に令達、執行可能としていく。

2 予算執行例

屋久宮前小学校	授業力向上講師報償費	299,000 円
	放課後学習・T T 講師・学校事務報償費	500,900 円
屋久西小学校	算数少人数教室に電子黒板設置	774,900 円
	全教室にデジタルカメラ購入	215,900 円
第七峡田小学校	調べ学習用本の購入	1,000,000 円
	言語環境の充実	373,600 円
諏訪台中学校	「諏訪台てらこや」大学生講師報償費	348,000 円
	問題データ購入費	132,300 円
	検定問題集教材費	38,000 円
	電子教科書購入費	89,000 円
	問題収納ケース購入費	92,400 円

3 学力の検証

- ・ 全国学力・学習状況調査（抽出学年：小学校 6 年と中学校 3 年）で検証
- ・ 東京都学力調査（抽出学年：小学校 5 年と中学校 2 年）で検証
- ・ 荒川区の学力調査（全学年実施）で経年変化を検証

2016年2月3日（水）

静岡県磐田市教育委員会学校教育課指導グループ袴田恭紹主幹兼指導グループ長と磐田市教育委員会学校教育課指導グループ鈴木仁之指導主事から説明を受けた「磐田市小中一貫教育」の内容

1 これまでの経緯

- ・ 平成 21 年度 小中一貫教育の調査研究開始
- ・ 平成 22 年度 先進地の視察、講師を招いて研究会開催
- ・ 平成 23 年度 磐田市小中一貫教育検討委員会開催
- ・ 平成 24 年度 試験的に 2 中学校区で小中一貫教育を実施
磐田第一中学校と磐田中部小学校・磐田西小学校
豊岡中学校と豊岡南小学校・豊岡北小学校
- ・ 平成 25 年度 3 中学校区で実施
向陽中学校と向笠小学校・大藤小学校・岩田小学校
南部中学校と磐田南小学校・長野小学校
豊田南中学校と青城小学校・豊田南小学校
- ・ 平成 26 年度 2 中学校区で実施
福田中学校と福田小学校・豊浜小学校
豊田中学校と豊田北部小学校・豊田東小学校
- ・ 平成 27 年度 3 中学校区で実施
城山中学校と磐田北小学校・富士見小学校

神明中学校と東部小学校・田原小学校
竜洋中学校と竜洋北小学校・竜洋西小学校・竜洋東小学校

2 磐田市の小中一貫教育

- ・ 施設分離型小中一貫教育を中学校区単位で実施する。
- ・ 地域社会とともに小中一貫教育を中学校区（学府と呼ぶ）で実施する。

3 磐田市小中一貫教育で期待される効果

- ・ 子どもが変わる⇒学力が上がる、安心・安定した学校生活を送れる
- ・ 教師が変わる⇒指導力が向上する
- ・ 地域が変わる⇒地域の意識改革が生まれる
- ・ すべては、磐田市の子どもたちのために実施する

4 磐田市小中一貫教育の特徴

(1) 目指す子ども像を学府ごとに設定する。

具体的な取組

- ・ 小中合同研修会の実施
- ・ 小→中の授業参観、中→小の授業参観
- ・ 乗り入れ授業
- ・ 小中交流（行事、部活動、宿泊訓練、水泳と陸上の大会）

(2) 地域を愛し、地域で活躍しようとする子どもを育てる。

具体的な取組

- ・ 総合的な学習の時間に地域学習を行う
- ・ 学府保健委員会の実施
- ・ 地域住民による授業を行う

(3) 中学校卒業時、ゆっくりでも英語で会話ができる子どもを育てる。

具体的な取組

- ・ 9年間のモデルカリキュラムを実践する
- ・ ALTを18人配置する
- ・ 小学校1年生からの外国語活動の導入

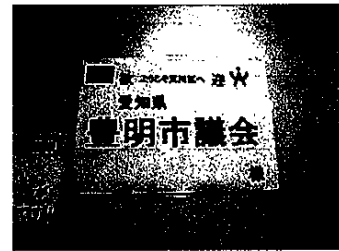
5 磐田市のサポート

(1) 市費による教職員の配置

- ・ 各校に小中一貫教育コーディネーターをおく
- ・ コーディネーターを補助する教員を市費で配置する
- ・ 小中一貫教育実践報告会を開催する
- ・ 小中一貫教育コーディネーター研修会を開催する

感想

- 1 荒川区内34小中学校がそれぞれで、学校の基本方針となる「学校パワーアップ全体構想図」を作成し、学力向上のための調査結果を分析し、そこから学校ごとの「学力向上マニフェスト」を作成し、3本の柱となる「学力向上マニフェスト」「創造力あふれる教育の推進」「未来を拓く子どもの育成」の具体的な中身を検討し、予算積算シートや企画提案書を作成し、当局からのヒアリングを受け、マニフェストや全体構想図を区民に公表し、各学校平均220万円の予算が配当され、6月～3月まで実践をし、3月に成果の報告と公表をするという取組を平成20年度から毎年実践していることは、とても素晴らしいし、うらやましいと感じました。校長の予算執行上の裁量権を大幅に拡大して、各学校の教育活動を活性化するという点に感動しました。
- 2 全国学力・学習状況調査だけではなく、東京都の学力テストと荒川区の独自の学力テストで毎年、子どもたちの学力状況を分析し、対策を考えているという検証の取組も説得力があって素晴らしいと感じました。
- 3 荒川区役所では、4階の議会事務局フロアにエレベーターで着いてエレベーターの扉が開いた瞬間、議会事務局の職員全員が廊下に一列に並んで盛大な拍手で我々二人を大歓迎してくださり、たいへん感激しました。また、廊下には「ようこそ荒川区へ 愛知県豊明市議会様」のプレートが貼ってあったり、会議室のテーブル上には荒川区と豊明市の旗がクロスして置いてあったり、至れり尽くせりのおもてなしでした。こういうことは見習わなければいけないおもてなしだと思いました。



ってなくならない。そのギャップを急激に感じるか、緩やかに感じさせるのかの違いだと説明されました。なるほどなあと納得しました。

7 中学校卒業時にゆっくりでもいいから、全員の子どもが英語で会話できるように9年間のモデルカリキュラムを作成し、ALT(外国語指導助手)(Assistant Language Teacher)を市内の小中学校に市費で18人配置するという配慮も素晴らしいと思いました。

8 磐田市役所でも送迎を含めて、議会事務局と教育委員会の皆様にたいへん親切で丁寧な説明をいただき、心温まる対応をしていただきました。お世話になった皆様に感謝申し上げます。

平成27年度 豊明市議会

会派行政視察視察 報告

会派の名称 緑の風
議員 近藤裕英

視察日 平成28年2月2日（火）

平成28年2月3日（水）

視察先 荒川区（東京都） 2月2日（火）

□ 「学校パワーアップ事業」の中の「学力向上
マニフェストについて聞き取り」

視察先 磐田市（静岡県） 2月3日（水）

□ 「小中一貫教育について聞き取り」

提出日 平成28年3月3日

荒川区 (視察日 平成28年2月2日)

視察項目 「学校パワーアップ事業」の中の「学力向上マニフェストについて聞き取り」

荒川区の概要

人口：203,296人 / 面積：10.16km²

視察内容

□ 学力向上マニフェスト

各学校長の経営構想に基づき、教員の授業力向上策や子どもの学力向上策など、確かな学力の定着・向上を図るための学校の取り組みを各校が「学力向上マニフェスト」としてまとめ、保護者・区民に公表するとともにその成果も公表する。

□ 想像力あふれる教育の推進

学校教育ビジョンの掲げる心の教育、健康や体力づくり、地域社会と一体となった教育を推進するために、各校の特色ある教育活動をより充実・活性化させる。教育活動の成果については、積極的に公表し説明責任を果たす。

□ 未来を拓く子どもの育成

個性や可能性を開花させる教育を一層充実させるため、子どもの学びを引き出す教育環境を一層整える必要がある。そのため、学校の提案による優れた特色ある企画・実践に対して、必要と認める予算を配当し教育効果を挙げる。

所 感

子ども園・幼稚園・小学校・中学校、それぞれに自立的な創意工夫が出来るように行政が支援している。そのことによって各校の伝統を引き継ぎながらも、相乗効果が生まれている。

磐田市 (視察日 平成28年2月3日)

視察項目 小中一貫教育について聞き取り

稲敷市の概要

人口：168,625人 / 面積：163.45km²

視察内容

□ 小中一貫教育で期待される効果

子どもが変わる・教師が変わる・地域が変わる

□ 小中一貫教育の特徴

学府ごとに設定（任意）

地域を愛し、地域で活躍しようとする子ども

中学卒業時、ゆっくりでも英語で会話ができる子ども

□ 市のサポート

市費による教職員の配置（県職員と同条件でふるさと先生配置）

各種研修会の実践（実践報告会・コーディネーター研修会）

ALTの配置（H27年 18人配置/生徒数13,910）

所 感

各学府で、それぞれの目指す子ども像などを設定して、小中交流・小小交流を展開している。また、幼保を含めた合同研修会も開催し、地域住民にも係わって推進している。統一校舎でなくても、一貫教育に取り組んでいるスタンスは参考となる。本市もアセットを考慮しながら、取り組みが出来ると感じた。